

指導方法等の改善計画について

〔国語科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
76%	70%	69.8%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- ・国語の教科全体の正答率は76%であり、全国や広島県の平均正答率を約6%上回った。国語の基礎的な学力は概ね定着していると考えられる。
- ・領域別の正答率では、「話すこと・聞くこと」85.8%、「書くこと」66.8%、「読むこと」71.5%となっており、いずれも全国や広島県の平均正答率を上回っているものの、「書くこと」に課題が見られる。
- ・「レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する」問題の正答率が53.5%と、全ての問題の中で最も低かった。

重点課題

- ・「レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する」ことに課題が見られた。文を直す意図として、理由ではなく、興味をもったきっかけを明確にしようとしたという誤答が多く、30.7%に上った。
- ・古典作品のどこがどのように工夫されているかについて書く問題では、無回答率が14.9%と高かった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・国語の授業の中で、文章を書く際に目的や相手を明確にし、推敲する場面を設定する。自己評価や相互評価を取り入れ、読み手の立場に立って文章を整えることができるようにする。
- ・単元の終わりに、根拠を明確にして自分の意見を述べる意見文や、多面的なものごとを捉える批評文など、「書く」活動を取り入れることで、文章を書く機会を多く設ける。また、文章の内容だけでなく、作者のねらいや意図、工夫点に着目させる活動を行う。

指導方法等の改善計画について

〔算数科・数学科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
63%	49%	51%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- ・数学の教科全体の正答率は 63%であり、全国や広島県の平均正答率を 10%以上上回った。領域別にも、数と式 74.3%，図形 44.2%，関数 62.1%，データの活用 65.7%であり、いずれの項目も全国や広島県の平均正答率を上回っている。なお、全国平均を最も大きく上回った領域はデータの活用 (+17.2%)，もっとも小さかった領域は関数(+10.9%)であった。
- ・問題別では、反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題で、全国の正答率を 1.2%下回った。

重点課題

- ・反比例は x の値と y の値の積が一定であるが、反比例における変化の割合の意味の理解が不十分で、 y の値を x の値でわった商は一定で、比例定数 3 に等しいと選んでいる生徒が 34.7%いた。(4) 4 択問題、通過率 41.6%)
- ・累積度数の言葉の意味が理解できておらず、累積度数を相対度数と捉えている生徒が 19.8%，解答類型にのっていない解答をしている生徒が 13.9%いた。(5) 通過率 46.5%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・第 4 章 $y=ax^2$ において、比例、反比例、一次関数と比較しながら学習を展開していき、それぞれの変化の割合の求め方や意味を重点的に教えていく。
- ・データの活用は、累積度数、度数、階級、相対度数、累積相対度数、四分位数など数学的用語が多く出てくる領域である。言葉の意味を教えることはもちろんだが、授業の中で練習問題を多く用意し繰り返し練習させることで、求め方まで身に付けさせる。

指導方法等の改善計画について [英語科]

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
43%	43%	45.6%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 英語の教科全体の正答率は43%であり、全国平均を2.6%下回った。全体として学力の定着が不十分である。
- 領域別では、「聞くこと」の正答率が54.8%であり、広島県(55.1%) 全国(58.4%)をともに下回っており、最も課題がある。「読むこと」の正答率は50.5%で、広島県の正答率(50.1%)はやや上回っているが、全国の正答率(51.2%)は0.7%下回っている。「書くこと」の正答率は20.6%で、広島県の正答率(20.3%)はやや上回っているが、全国の正答率(23.4%)は2.8%下回った。

重点課題

- 忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する問題において、英文の内容を聞き取って理解することができなかった生徒が53.5%いた。(2 領域「聞くこと」正答率46.5%)
- ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題において、underの意味をonと解釈していた生徒が32.7%いた。(1 (1) 領域「聞くこと」正答率66.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- やや長いまとまった英文を聞かせ、内容を理解する練習を定期的に行う。(週1~2回程度) さらに、場面設定を細かく行った上で聞き取りをさせ、状況に合った選択肢を選ばせる練習を定期的に行う。(週1回程度)
- 定期的に、基本的な内容の聞き取りテストを行う。また、基本的な単語や連語のテストを15問ずつ定期的に行い(週1~2回程度)、基本的な語彙力の定着を図る。

指導方法等の改善計画について〔質問紙調査〕

坂町立坂中学校

(1) 生活・学習

児童・生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
質問番号（16）家で自分で計画を立てて勉強していますか。 （肯定的回答 44.2%）	定期試験期間においては、時間や内容を細かく記入する学習計画表の作成を行っており、その取組を継続していく。また、定期試験期間以外の場面では、『じぶんログ』（日誌）等に学習時間や学習内容を簡易的に書かせる機会を設定する。

(2) 教科

国語 児童・生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
質問番号（52）国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか。（肯定的回答 59.8%）	「話すこと」の単元で、聞き手の立場に立った効果的な話し方を工夫する活動を取り入れる。また、普段の授業の発表時に、「話すこと」の単元での学習内容を想起させ、定着を図る。
算数・数学 児童・生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
質問番号（58）数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 （当てはまる【4段階尺度の最も肯定的な回答】 42.2%）	単元の章末に「日常生活で数学を利用する活動」を取り入れ、数学を様々なできごとと結び付けて活動することを通して、既習の知識及び技能を活用したり、数学的な見方や考え方などの必要性やよさを実感したりする機会としていきたい。
英語科 児童・生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
質問番号（66）1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。（肯定的回答 63.8%）	まとまった英文を聞き、まず内容に関する質問に英語で答えさせ、次に英語で概要を話させ、最後に概要を英文で書かせるという活動を定期的に行う。（週1～2回程度）